



中国労災病院

日本医療機能評価機構認定病院
地域医療支援病院
広島県指定がん診療連携拠点病院

◎ホームページにも、いろいろな情報を掲載しています。
ぜひご覧ください

中国労災

検索

病院理念

患者中心の良質な医療と地域医療への貢献

基本方針

- ・個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
- ・地域と連携し、救急から慢性期まで一貫した医療を行います。
- ・周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
- ・高度専門的な医療に基づいた勤労者医療を進めます。
- ・優れた人材を育て、働きがいのある職場を作ります。

新年のご挨拶

院長 榎野 新

新年明けましておめでとうございます。

旧年中はいろいろお世話になりました。今年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年は、日本のスポーツ界でもいくつか注目すべき出来事がありました。テニスの錦織圭、体操の内村航平、フィギュアの羽生結弦、それにラグビーのワールドカップが心に残っています。

昨年はイングランドでラグビーワールドカップ（W杯）が開催されました。その1次リーグ・プールBで日本代表は南アフリカと対戦しました。南アフリカは世界ランク3位で2度の優勝経験がある強豪です。日本はW杯で今までに対ジンバブエ戦に1勝（24年前の1991年）しているのみでした。

ラグビーは番狂わせが起こりにくいスポーツだと言われています。当然、南アが大差で勝つと予想されていました。試合が始まると、FB五郎丸歩がペナルティゴールで先制。その後逆転、逆転の連続。10-12の2点ビハインドで前半を終了しました。最初ノーチャンスと思われていた日本が善戦していることから、後半に入るとブライトンスタジアムの3万人の観衆は殆どがジャパンコールに変わっていきました。更に手に汗握る逆転、逆転の後、ロスタイム、29-32のビハインドからWTBカーン・ヘスケスがインゴールに飛び込みトライ、34-32で逆転勝利しました。

その後、日本代表はスコットランドに敗れたものの、サモア、米国に勝って3勝1敗となりました。ただ残念ながら勝ち点差で1次リーグ敗退となりましたが、3勝1敗で敗退となったのは史上初めてのことだそうです。

この試合に対し、海外のメディアは「スポーツ史上、最大の番狂わせ」と書きました。しかし、代表チームのヘッドコーチがエディ・ジョーンズにかわってから選手の練習量がものすごく増えていたのだそうです。朝5時から練習を開始して、午前、午後、夜と練習し、1年間の拘束日数は160日を超えていたそうです。五郎丸歩選手も「4年間、これ以上ないくらいのハードなトレーニングをしてきた。そういうことがグラウンドに立ったら出てくる。」と言っていたとか。

私たちは華々しい勝利の場面しか目に入りません。その裏に選手たちの血の滲むような努力があることを忘れがちです。やはりこの勝利は彼らの努力の結果であり、「番狂わせ」ではなかったと言えます。彼らは私たちに元氣と希望を与えてくれました。彼らに賞賛の言葉を贈りたいと思います。

医療においても同じ様なことが言えます。病院の診療機能を維持・向上させるにも継続した日々の努力が欠かせません。今年も私たちは彼らを見習って患者さんのために頑張って参ります。皆様のご支援をよろしくお願い致します。

検査室だより

～ お薬の処方と血液検査 ～



当院の外来診療を受診される患者さんには血液検査を受けていただくことがあります。

血液は体内を循環しているので、血液の成分を詳しく調べることにより病気の診断および治療の状況を正確に把握することに役立ちます。診察後には、薬局で薬を受け取ることとなりますが、当院では薬の処方せんに患者さんの血液検査の結果を印刷しています。

代表的な血液検査の項目は、肝臓機能、腎臓機能、循環器機能、炎症免疫機能、血液凝固機能、糖尿病代謝です。処方せんに印刷された血液検査の結果を参考に薬剤師が薬を調剤することにより、事前に副作用のリスクの防止が図られます。具体的には、病状に対する禁忌薬剤の確認、腎臓機能低下の患者さんの服用量の確認が容易になります。

患者さんの安全な服薬に貢献するためにも、中央検査部は正確な血液検査を実施してまいります。